

新潟県卓球連盟

卓球便

vol.52

平成31年3月29日

発行人／新潟県卓球連盟
印刷所／(有)フジプリント
(新潟市)

平成30年度 全国高等学校総合体育大会卓球競技大会 「彩る感動東海總体2018」

第87回全国高等学校卓球選手権大会 (翔べ誰よりも高く東海の空へ)

●平成30年8月3日(金)～8月8日(水) ●スカイホール豊田(愛知県豊田市)



新潟県高体連
県門部委員長
松本 滋

今年のインハイは愛知県豊田市(スカイホール豊田)で行われました。今年度の中日本卓球選手権大会が開催された体育館でもあります。多くの卓球大会で使用される有名な体育館ではないでしょうか。このインハイの話では毎回触れている気がするのですが、宿舎の問題が常に回るような気がします。今回の役員宿舎は歩いて小一時

間ほどのビジネスホテルでした。しかし、比較的愛知に近いと思われる県の役員たちは(北信越でいえば福井や石川県は)名古屋市からの通いでした。毎日豊田まで電車で片道約一時間です。なかなかたいへんです。愛知県のような大都市でも場所によってはかなり会場から遠い宿舎が存在してしまいます。これほどインハイは規模が大きくてへんなんだと思わされることの一つです。新潟での全国大会も会場と宿舎の関係は常に頭を悩ます問題になると想います。

今回のインハイで最も驚いたのは男子団体戦でした。全国でも有名な強豪校、第四シード福岡県の希望が

丘高校に新潟産業大学附属高校が勝つことです。一回戦早稲田実業高校(東京)に三一で勝ち、二回戦シード校の希望が丘高校に三一二で勝利、しかし三回戦滝川第二高校(兵庫)に二一三で惜敗。(一番小唄三一で勝ち、二番呂三一〇で勝ち、三番ダブルス二一三で負け(第四ゲームは一三一一、第五ゲームは二一一)、四番渡辺二一二で負け、五番竹田一一三で負け)結果、ベスト十六でした。全国の強豪校に勝つ力があるのだと感じると同時に、それをキープし、上位を維持することの難しさを感じさせてくれました。

インハイ上位常連校は、おそらくチャンスがあれば優勝するくらいの力がなければ、上位を維持できないでしょう。昨年新潟県はベスト八を狙うことが現状なのかと書きましたが、ベスト八を維持していくたいへんさを引き受けるのか、たまにベスト四あたりまで勝つてみたりするような学校を目指すのかということのほうが現実に近いのかとも考えさせられました。

VICTAS
The innovator of the future

V>15

類まれなる総合力

V>15 エキストラ

020461 6,000円+税

Style ————— ハイエナジーテンション裏ソフト
Thickness ————— MAX / 2.0
Color ————— レッド/ブラック
Made in Germany





男子ダブルスは小唄・渡辺組（新潟産大附）が3回戦で手塚・稻木組（静岡学園・静岡）に「一ー三で敗退でした。二回戦で、第七シードの強豪チームである浦口・浦口組（日南学園・宮崎）に「一一七、八一一、一一五、一二一〇と競り勝っています。八シードのチームにも勝てる力をここでも出しつつ、三回戦三ゲーム目四一一、四ゲーム目六一一と終盤取り切れず終わってしまいます。強豪校に勝つ実力はある。が、コンスタントに八に入るぐらいの多くの強い選手をたおしまくるまでの実力の引き出しが多くない。しかし、私が過去に感じている新潟県の状況からはずいぶん進歩しているのではないかと思います。この先のビジョンをどう描くかは大事なのかとも感じています。今できているこの結果

せんね。
男子ダブルスは小唄・渡辺組（新潟産大附）が3回戦で手塚・稻木組（静岡学園・静岡）に「一ー三で敗退でした。二回戦で、第七シードの強豪チームである浦口・浦口組（日南学園・宮崎）に「一一七、八一一、一一五、一二一〇と競り勝っています。八シードのチームにも勝てる力をここでも出しつつ、三回戦三ゲーム目四一一、四ゲーム目六一一と終盤取り切れず終わってしまいます。強豪校に勝つ実力はある。が、コンスタントに八に入るぐらいの多くの強い選手をたおしまくるまでの実力の引き出しが多くない。しかし、私が過去に感じている新潟県の状況からはずいぶん進歩しているのではないかと思います。この先のビジョンをどう描くかは大事なのかとも感じています。今できているこの結果

は過去からの進歩として素晴らしいものだと感じます。



がやはりインハイなど全国上位者のなかで同じプレーができるか、というところが一つのポイントなのでしょう。女子も昨年より今年と着実にレベルアップしている感があります。この男女とも、県内で群雄割拠して切磋琢磨してい

女子ダブルスは児玉・伊藤組（北越）が三回戦で浅井・原田組（桜丘・愛知）に「一ー三（五一一一、一三一、一一、八一一、六一一）で敗退しました。相手の浅井選手は国体少年女子優勝チームの一人です。北信越大会では児玉・伊藤組は、息の合つた、非常に引き出しの多い、負けないプレーを見せてくれるチームだな

と思っています。男女とも一回戦が（午前シングルズ一回戦、昼にダブルス八から決勝、最後に一五時から団体準決）行われます。大会四日目（シングルス五回戦までと団体決勝）に二回戦からインハイでは三日目にシングルズ男女とも一回戦が（午前シングルズ一回戦、昼にダブルス八から決勝、最後に一五時から団体準決）行われます。大会四日目（シングルス五回戦までと団体決勝）に二回戦から

回戦までの四試合が立て続けに行われます。この中ですべて勝つてベスト八の最終日に勝ち残るのは至難の業です。四連続

試合の中で相手を見破りつつ自分を出していく難しい試合が続きます。勝ち進むのはかなりの力量が必要だと

張本智和
アドバイザリースタッフ
バタフライ!

BUTTERFLY

卓球で夢をかなえる
バタフライとかなえる

株式会社タマス 0120-600-731
butterfly.co.jp

思っています。女子シングルスは謝（開志国際）、伊藤（北越）が二人とも

大会記録

〈男子学校対抗〉

- 1回戦 新潟産業大学附属高等学校 3-1 早稲田実業(東京)
 2回戦 新潟産業大学附属高等学校 3-2 希望が丘(福岡)
 3回戦 新潟産業大学附属高等学校 2-3 滝川第二(兵庫)

ベスト16

〈男子ダブルス〉

- 1回戦 石本・趙 (開志国際) 3-0 池田・楳尾 (敬徳・佐賀)
 小唄・渡辺 (新潟産大附) 3-0 川内谷・星野 (岩瀬日大・茨城)
 2回戦 石本・趙 (開志国際) 1-3 月館・加藤 (日大豊山・東京)
 小唄・渡辺 (新潟産大附) 3-1 浦口耕・浦口健 (日南学園・宮崎)
 3回戦 小唄・渡辺 (新潟産大附) 1-3 手塚・稻木 (静岡学園・静岡)

ベスト32

〈男子シングルス〉

- 1回戦 呂 (新潟産大附) 3-0 鹿子木 (開新・熊本)
 石本 (開志国際) 3-0 大関 (作新学院・栃木)
 渡辺 (新潟産大附) 3-0 北中 (倉吉東・鳥取)
 小唄 (新潟産大附) 3-0 北原 (瓊浦・長崎)
 2回戦 呂 (新潟産大附) 1-3 小野寺 (専大北上・岩手)
 石本 (開志国際) 3-2 近藤 (明豊・大分)
 渡辺 (新潟産大附) 3-0 窪 (明秀日立・茨城)
 小唄 (新潟産大附) 3-0 由井 (作新学院・栃木)
 3回戦 石本 (開志国際) 0-3 横谷 (愛工大名電・愛知)
 渡辺 (新潟産大附) 1-3 西 (上宮・大阪)
 小唄 (新潟産大附) 0-3 上村 (大阪桐蔭・大阪)

ベスト64

ベスト64

ベスト64

〈女子学校対抗〉

- 1回戦 北越 1-3 鹿児島城西 (鹿児島)

〈女子ダブルス〉

- 1回戦 太田・遠藤 (北越) 2-3 鈴木・寺西 (駒大苦小牧・北海道)
 2回戦 児玉・伊藤 (北越) 3-1 山本・沼野 (日本航空・山梨)
 3回戦 児玉・伊藤 (北越) 1-3 浅井・原田 (桜丘・愛知)

ベスト32

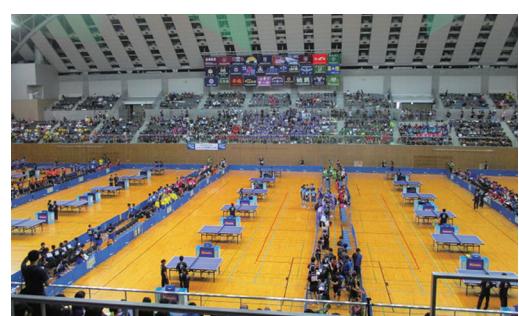
〈女子シングルス〉

- 1回戦 謝 (開志国際) 3-1 中村 (普天間・沖縄)
 児玉 (北越) 2-3 近藤 (五所商業・青森)
 太田 (北越) 2-3 中山 (幕張総合・千葉)
 伊藤 (北越) 3-0 高田 (滋賀学園・滋賀)
 2回戦 謝 (開志国際) 2-3 青木 (武蔵野・東京)
 伊藤 (北越) 1-3 門阪 (浜松修学舎・静岡)

敗退でした。様々な相手がいる中で自分の力を出し切るのは難しいし、毎日ハイパフォーマンスを求められる苛酷な一週間だと思います。



今回の大会を見て感じたことは、相手を研究しなければ全国大会では上に行けないだろうということ。また研究されてもは上に負けないだろうということ。またねかえせる力がなければ勝ち続けられないだろうといふこと。新潟県選手が、地元や北信越でそこそこ勝つても全国で勝てなかつたりするのは情報力の差もあるのではないか。研究していくから勝てるとは限りませんが一発勝負の場合流れを生み出したり、ブ



めるのは私には非常に違和感があります。それが現状が非常に違和感があります。こちらが研究していける可能性はあります。これが現状です。こちらが研究していける可能性はあります。普通の高校生が動画で撮影すればいいのです。普段の高校生がこちらを研究していける可能性はあります。普天間の女子の遊学館対四天王寺を見ています。そこから見ていて

撮影し始

立し、芸能人でも現れたのか?といふ勢いで

レッシャーにはなるでしょう。情報に頼らず純粋に強くなればいいといふ発想は今の世の中ではどうなのでしょう。これだけスマホやSNS等が発達してしまって、ハイの有名校が負けそうになると、スマホが一齊に乱立し、芸能人でも現れたのか?といふ勢いで

本当に愛知の夏は暑かつた。太陽が近すぎる!と感じるのは湿気が無いせいでしょうか?新潟より暑かつたです。(痛いに近い暑さでした…)

原点回帰

ノングルー時代こそ元祖・高弾性高摩擦ラバー

MARK V へ帰る

 Yasaka

<http://www.yasaka-jp.com>



がら練習に励みました。二部といえども、対戦相手には実業団でやつていた人もいます。私自身産後一年も経っていない状況でしたので、メンバーが揃っていても不安でいっぱいでした。

その後四番の杉原選手も勝ち、優勝が決まった瞬間は、学生のように感情を爆発させ、みんなで手を取り合って喜びました。日本一になれたことは私は初めてでしたし、みんなで力を合わせて勝ち取れたことで喜びも一層大きなものになりました。これがあるから社会人になつても、卓球をやめられないのかも知れません。

昨年（平成三〇年）七月、三重県津市で開かれた全日本クラブ選手権にSanity（サニティ）として出場し、女子一般の部二部で優勝することができました。まずは日頃から支援、応援していただいている本県の関係者の方々にお礼申し上げます。

とはいっても、異なるチームで同大会の入賞をしてきたメンバーでしたので、一緒に優勝した今大会は、初めから優勝を狙っていました。

とはいえ、学生や会社員など、立場が違うチームメートが時間を合わせるのは難しいこと。大会前には日時を調整しながら、週に何回も集まり「何でプロでもないのにこんなに追い込んでいるんだろう」と笑いな

大会はリーグ戦後にトーナメントを行った形式で、全部で六試合。実際、どの試合も快勝したものはなく、トーナメントでは全て三十二の辛勝でした。緊張してガチガチになつても、思うプレーができずにくじけそうになつても、お互いに励まし合うことができたと思います。誰かが負けても誰かが勝つてくれて、フォローし合いました。

どの試合も大変でしたが、一つ挙げるとすれば、やはり決勝で対戦した小浜クラブ（兵庫）戦でしようか。二年前、対戦し苦杯をなめていたチームです。やりにくい粒高選手に苦しめられました。五番で私にまわってきた時は、前回負けた時の悔しさとどうしても勝ちたい気持ち、冷静に試合を運ぶにはどうすべきかなど様々なことが頭に浮かびました。試合はフルセットのデュースで何とか勝利。四番より先に終わつた私は、みんなに迷惑をかけずに済み安堵したというのが正直なところでした。

一緒にプレーしたメンバーはもちろん、会場で応援をしてくれたサニティの他のメンバーや他の部門に出場していた県勢のみなさんに対しても、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。三重までついて来てくれた夫や娘にも、プレーする姿を見せることができて良かったです。この経験を励みに、また楽しんでいただけ思います。ありがとうございました。

Nittaku

全日本卓球

平成 29 年度 全日本卓球選手権（一般・ジュニアの部）大会使用球

第37回全日本クラブ卓球選手権大会 女子一般2部優勝

Sanity 渡邊 夕紀子

第49回全国中学校卓球大会

●平成30年8月22日(水)～25日(土) ●広島県立総合体育館

【講評】

今年度の全中は、広島県立総合体育館で開催された。全国大会を開催するにふさわしい、大変素晴らしい会場であった。



新潟県中学校体育連盟
卓球専門部部長
桑原 裕



立川朋佳(亀田)
佐藤杏香(大潟町)

【成績】

〈男子個人〉

1回戦

若月展翼(柏崎第二) 0-3 中村煌和(愛知・愛工大名電)

〈女子個人〉

1回戦

立川朋佳(亀田) 1-3 大西友佳(香川・丸亀南)

佐藤杏香(大潟町) 1-3 藤田知子(神奈川・横浜隼人)

新潟県勢は個人戦のみの出場であった。男子個人は若月(柏崎第二)が出場した。

一回戦、若月の相手は同じ一年生で、昨年度の小学五・六年生の部で全国優勝した愛工大名電中(愛知)の選手との対戦だった。一ゲーム目はサーブやストッププレシーブが効き、前半をリードするも後半攻め込まれ、逆転で落としてしまった。二ゲーム目以降は相手に先手を取られる場面が多くなり受け身になってしまい、〇-一三で負けた。相手との実力差を感じた試合であった。



女子個人は、北信越優勝の佐藤(大潟町)と三年連続出場の立川(亀田)の二名が出場した。一回戦、佐藤は横浜隼人中(神奈川)の選手と対戦。一ゲーム目、回転の変化をつけて相手のミスを誘い、先取した。しかし、二ゲーム以降は相手がツツツキで粘り、前後に搖さぶられたり、ミドルを攻められたりのパターンでの失点が続き、一-一三で敗退した。立川は丸亀西中(香川)の選手と対戦した。サーブで相手を崩し、フォアハンドの連続攻撃やバックハンド(表ソフト)で相手のミスを誘い、一ゲーム目を先取した。二ゲーム目は、相手のしゃがみ込みサーブに対してもシーブミスが続いた。後半は立川の巻き込みサーブが効き、追い上げたがデュースで落としてしまった。三ゲーム目以降も接戦ではあったが、相手が左利きで広角に打ち分けられ

たり、打ち急いでフォアハンドのミスが出たりと一-一三で敗退した。

残念ながら、出場した三選手は一勝もすることができなかつた。出場した選手たちに感想を聞いてみた。「一年生で出場できたことはうれしかつた。自分の予想以上にレベルが高かつた。来年はもっと勝ちたい。(若月)」「緊張した。自分の苦手なところを突かれて、それに対応できなかつた。(佐藤)」「緊張感はなかつた。昨年、一昨年よりも声を出して相手に向かっていけた。フォアハンドはよかつたが、レシーブからの展開がうまくいかなかつた。(立川)」

全体的に見ると、男子は中陣でのラリー展開になることが多いが、時折速いピッチでの連続攻撃で得点につなげている。女子は、速いピッチで前陣でプレーする選手が多く、下がつてのプレーはなかなか得点につながりにくい。カットマンの活躍も目立つてきている。また、男女とも相



手の攻撃に對してのブロックができない。なれば得点につながらない。ブロックでも止める、強く、曲げるなど、他の選手が上位に上がつてくる。その他、デュースになつた時の戦術。特にサーブからの三球目攻撃での得点を、できるかどうかが鍵となる。打つコースを厳しくし、クロスでサイドを切つたり、ストレートをうまく攻めることで得点に結びついている。何本も連續で攻撃できるための体幹の強さがあり、プレーの安定性につながっている。

団体戦では、ベンチの雰囲気が勝敗に大きく影響する試合が多くつた。特に男子で、優勝候補の大本命で全中五連覇中の愛工大名電中が決勝トーナメント一回戦で敗れる大波乱があつた。破つたのは明豊中（大分）でどの選手も気迫を前面に出してのプレーが特徴のチームである。試合をしている選手とベンチの一体感があり、リードされていても最後まであきなめない粘りのプレーが名電中の選手にプレッシャーを与えていた。チーム作りをするうえで参考にすべきチームである。

これから部活動が制限されていく中で、今まで以上に新潟県卓球連盟強化部、小学委員会、高体連、クラブチームなどと連携を取るのは必須であるが、「チーム作り」をテーマとしての強化も必要であると強く感じた。

平成30年度北信越高等学校選抜卓球大会

● 平成30年12月14日(金)～16日(日) ● 長野市ホワイトリング

平成30年度北信越高等学校選抜卓球大会が平成30年一二月一四日から一六日まで長野県長野市ホワイトリングで行われました。団体戦、個人戦ともに新潟県選手の活躍が光りました。ここで報告をさせていただきたいと思います。

男子団体戦はインハイ第四シード希望が丘高校（福岡県）を倒した新



藤渡辺組対吉田天野組。二
勝ちました。ダブルスは武
藤一三で敗戦。四番は武藤選
手対清野選手（新潟県出身
選手）〇一

敗戦。二番カットの呂選手
対吉田選手。三一二で競り
勝ちました。ダブルスは武
藤渡辺組対吉田天野組。二
ゲーム目を取りましたが一
敗戦。三で敗戦でした。



のかということはあります、勝負にはなっています。北信越大会は全国選抜への出場権をかけた戦いであります。ぜひ全国での活躍を期待しています。またそう感じさせるものがあると思います。がんばってください！

女子団体戦では、遊学館高校（石川県）が昨年度の全国選抜大会で準優勝した結果、今年の全国選抜大会の出場権を得ている状態です。北信越選抜大会は通常通りのリーグ戦から決勝トーナメントを行い、そのトップのチームと遊学館高校が決勝戦を行うという変則的な形で行われました。その中で、北越高校はどちらもリーグ戦を危なげなく勝ち上がり、決勝トーナメント二回戦（いわゆる本来の決勝）敦賀高校（福井県）に三一二で競り勝ち、遊学館高校との決勝戦へ駒を進めました。優勝決定戦では二二三の惜敗でした。三番

平成30年度北信越高等学校選抜卓球大会結果報告

【男子学校対抗】(参加16校)

《予選リーグ》

上 越 0-3 遊学館(石川県)
 上 越 1-3 松商学園(長野県)
 上 越 3-2 高岡龍谷(富山県)
 ※予選Aリーグ3位
 開志国際 1-3 福井商業(福井県)
 開志国際 1-3 金沢学院(石川県)
 開志国際 3-0 松本工業(長野県)
 ※予選Bリーグ3位
 新潟産大附 3-0 富山商業(富山県)
 新潟産大附 3-0 長野商業(長野県)
 新潟産大附 3-0 工大福井(福井県)
 ※予選Dリーグ1位 決勝トーナメントへ
 《決勝トーナメント: 1回戦》
 新潟産大附 1-3 遊学館(石川県)
 ※新潟産大附3位(全国高等学校選抜卓球大会出場)

【女子学校対抗】(参加16校)

《予選リーグ》

新潟産大附 1-3 金沢学院(石川県)
 新潟産大附 2-3 高岡西(富山県)
 新潟産大附 0-3 松本県ヶ丘(長野県)
 ※予選Aリーグ4位
 開志国際 0-3 敦賀(福井県)
 開志国際 3-1 金沢桜丘(石川県)
 開志国際 3-1 須坂創成(長野県)
 ※予選Bリーグ2位 代表決定トーナメントへ
 北 越 3-0 長野商業(長野県)
 北 越 3-0 大野(福井県)
 北 越 3-0 富山商業(富山県)
 ※予選Dリーグ1位 決勝トーナメントへ
 《決勝トーナメント: 1回戦》
 北 越 3-1 金沢学院(石川県)
 《決勝トーナメント: 2回戦》
 北 越 3-2 敦賀(福井県)
 《優勝決定戦》
 北 越 2-3 遊学館(石川県)
 ※北越2位(全国高等学校選抜卓球大会出場)
 《代表決定トーナメント: 1回戦》
 開志国際 2-3 福井商業(福井県)

【男子シングルス】(参加20名)

《予選リーグ》

齊藤 大気(糸魚川白嶺) 3-1 太田光乃佑(長野・上田東)
 齊藤 大気(糸魚川白嶺) 2-3 半浦 朋弥(石川・北陸学院)
 齊藤 大気(糸魚川白嶺) 1-3 村田 良洋(福井・羽水)
 齊藤 大気(糸魚川白嶺) 3-1 前根 裕希(富山・高岡)
 ※予選Aリーグ4位
 鈴木 浩紀(佐 渡) 3-2 反怖 昂生(富山・南砺福野)
 鈴木 浩紀(佐 渡) 3-2 柴 拓磨(長野・赤穂)
 鈴木 浩紀(佐 渡) 3-0 田畠ゆうと(石川・羽昨)
 鈴木 浩紀(佐 渡) 3-2 谷口 智彦(福井・武生工業)
 ※予選Bリーグ1位 決勝トーナメントへ

新田 光一(新潟青陵) 3-2 山本 将也(福井・武生)
 新田 光一(新潟青陵) 3-2 畠山 渉(富山・高岡第一)
 新田 光一(新潟青陵) 3-1 吉原 隆晟(長野・市立長野)
 新田 光一(新潟青陵) 3-1 井黒 航太(石川・翠星)
 ※予選Cリーグ1位 決勝トーナメントへ
 渡邊 朝陽(新 発 田) 3-1 横山 航大(石川・七尾)
 渡邊 朝陽(新 発 田) 3-1 加藤龍之介(福井・三国)
 渡邊 朝陽(新 発 田) 3-1 野澤 健人(富山・富山)
 渡邊 朝陽(新 発 田) 3-1 池戸 寛人(長野・松本県ヶ丘)
 ※予選Dリーグ1位 決勝トーナメントへ
 《決勝トーナメント: 1回戦》
 鈴木 浩紀(佐 渡) 1-3 村田 良洋(福井・羽水)
 新田 光一(新潟青陵) 3-1 池戸 寛人(長野・松本県ヶ丘)
 渡邊 朝陽(新 発 田) 0-3 柴 拓磨(長野・赤穂)
 《決勝トーナメント: 2回戦》
 新田 光一(新潟青陵) 3-2 村田 良洋(福井・羽水)
 《決勝トーナメント: 決勝》
 新田 光一(新潟青陵) 3-2 柴 拓磨(長野・赤穂)
 ※新田 光一(新潟青陵) 優勝

【女子シングルス】(参加20名)

《予選リーグ》

河合 夏未(三 条) 2-3 小葉松李音(富山・泊)
 河合 夏未(三 条) 2-3 田島 美悠(長野・小諸商業)
 河合 夏未(三 条) 0-3 倉崎 円香(福井・武生)
 河合 夏未(三 条) 3-1 福井 果穂(石川・金沢商業)
 ※予選Aリーグ5位
 加藤 あい(新 潟) 3-2 浦 杏寿(石川・飯田)
 加藤 あい(新 潟) 3-2 石山 七菜(富山・入善)
 加藤 あい(新 潟) 1-3 宮下 佳奈(長野・伊那北)
 加藤 あい(新 潟) 1-3 前田絵梨奈(福井・武生商業)
 ※予選Bリーグ3位
 倉繁 優奈(上 越) 3-0 中田 愛理(石川・穴水)
 倉繁 優奈(上 越) 3-0 早瀬 咲希(富山・呉羽)
 倉繁 優奈(上 越) 3-0 丸山 紗生(長野・豊科)
 倉繁 優奈(上 越) 3-0 田邊 瑞衣(福井・啓新)
 ※予選Cリーグ1位 決勝トーナメントへ
 大久保沙野(三 条 東) 3-1 山田陽向花(福井・奥越明成)
 大久保沙野(三 条 東) 3-0 坂本 未夢(石川・羽昨)
 大久保沙野(三 条 東) 3-0 細川 依純(富山・高岡)
 大久保沙野(三 条 東) 3-0 小林実桜加(長野・須坂東)
 《決勝Dリーグ1位 決勝トーナメントへ》
 《決勝トーナメント: 1回戦》
 倉繁 優奈(上 越) 3-0 山田陽向花(福井・奥越明成)
 大久保沙野(三 条 東) 3-1 前田絵梨奈(福井・武生商業)
 《決勝トーナメント: 2回戦》
 倉繁 優奈(上 越) 3-0 福井 果穂(石川・金沢商業)
 大久保沙野(三 条 東) 2-3 倉崎 円香(福井・武生)
 《決勝トーナメント: 決勝》
 倉繁 優奈(上 越) 3-0 倉崎 円香(福井・武生)
 ※倉繁 優奈(上 越) 優勝
 大久保沙野(三 条 東) 3 位

のダブルスで児玉・伊藤組がインハイ優勝ペアの出雲・相馬組にまさかの三一〇で圧勝。四番児玉が三一二で三島選手を振り切り、五番勝負は相馬(新潟県出身)選手に〇一三で

西村選手(北越)が敗れ終了しました。女子も毎年着実に強くなっています。だと思いますし、場所さえよければ勝ち上がる力を持つていると思います。ぜひ全国の舞台で思う存分力を

発揮してきてほしいと思います。がんばってください!

個人戦は、過去に全国大会・北信越大会へ出場したことの無い選手でかつ、団体戦で今回北信越大会に出

ていい選手の中から全国選抜に名、北信越大会に四名(全部で五名のすべて違う学校の選手)が選ばれます。その中で今年は男子シングルス新潟青陵高校の新田選手、女子シングルス上越高校の倉繁選手が優勝。新潟県のアベック優勝を果たしました。また、女子は三位に三条東高校の大久保選手が入賞し、新潟県の選手層の厚さを見せつけています。

新田選手は予選リーグを一位で勝ち抜き、決勝トーナメント二回戦羽水高校(福井県)の村田選手に二一二から最後五ゲーム目を十一一六で振り切り決勝へ、決勝はまた赤穂高校(長野県)の柴選手に二一二から一一六で振り切って優勝。準決・決勝と最終ゲームまでもつれ込む接戦の中で粘り勝ちでの優勝でした。

倉繁選手は予選リーグを一位で勝ち抜き、決勝トーナメント一回戦、二回戦、決勝の武生高校(福井県)倉崎選手にも三一〇と、予選リーグから決勝まですべて三一〇という驚くべき結果での優勝でした。素晴らしい成績だと思います。三位の大久保選手も予選を一位で抜け、決勝トーナメント二回戦倉崎選手に惜しくも二一二で敗退。惜しい結果でした。

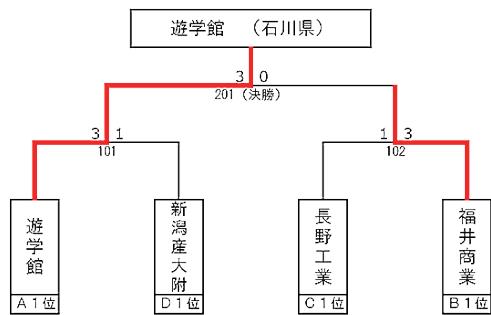
このようにシングルスでも新潟県選手は強さとまた、選手層の厚さを感じさせています。北信越自体が遊学館のおかげでレベルアップされて

た。

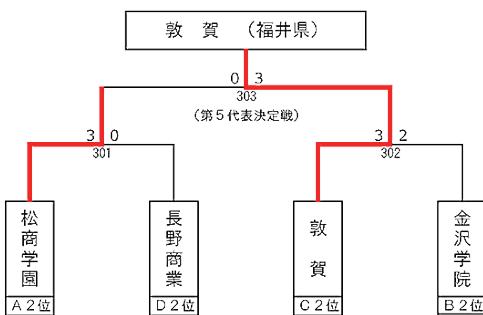
いると感じている中で新潟県も順調についていってはいると思います。遊学館を脅かす存在ではもう一步かと思われますが着実に背中に近づいています。この成果を継続し、ぜひ全国で活躍する学校が増えることを期待しております。



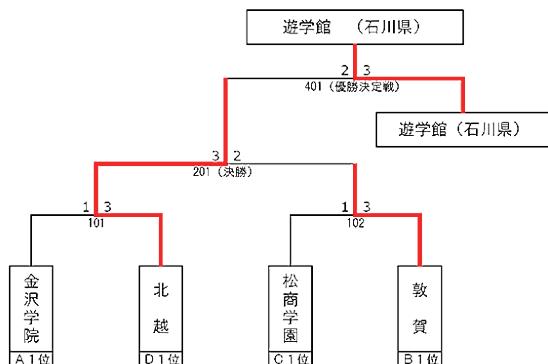
男子学校対抗 決勝トーナメント



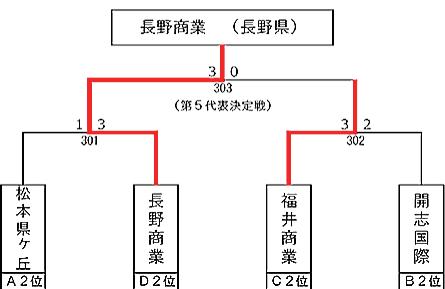
男子学校対抗 代表決定 トーナメント



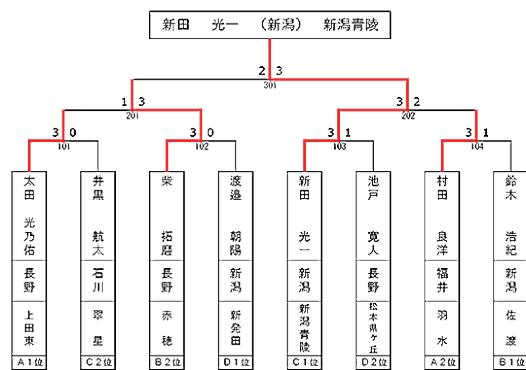
女子学校対抗 決勝トーナメント



女子学校対抗 代表決定 トーナメント



【男子シングルス】決勝トーナメント



【女子シングルス】決勝トーナメント

